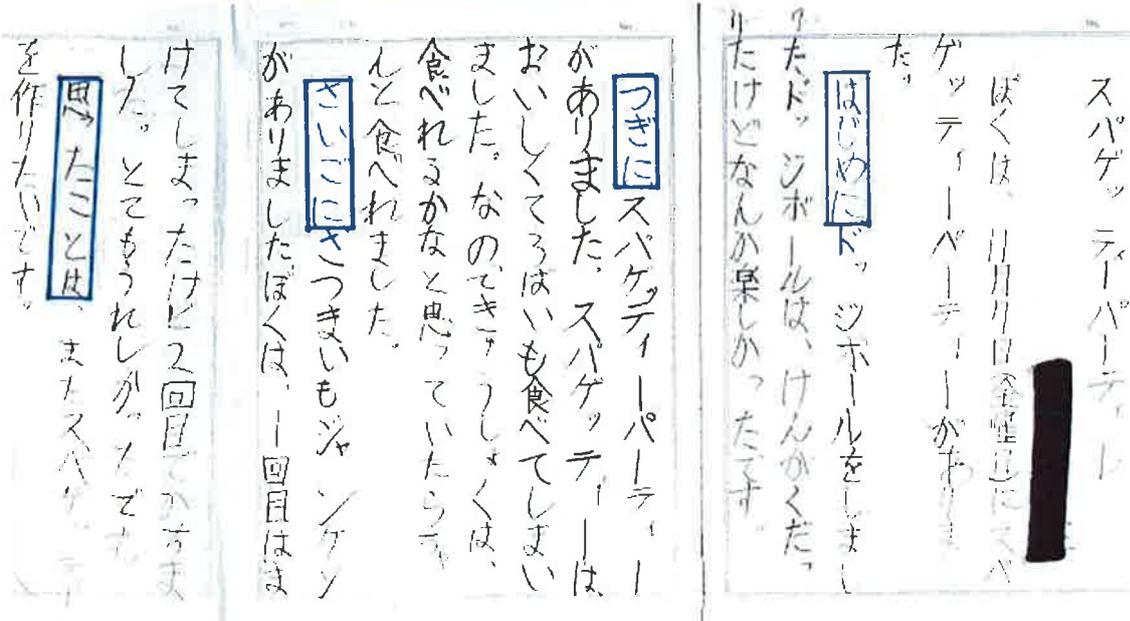




- 収穫後は、トマトソース作りを行い、その後に保護者を招いてスパゲティパーティーを行った。これらの活動も、めあてを持って書く練習のテーマとした。



■ 取り組みによって得られた成果:

- 児童が愛情をもって育てている「凜々子」を題材に、段階を踏みながら作文の指導を行なったことで、書くことが楽しいと感じる子が増えた。書きたいことを全て洗い出し、配列し、構築してから書くという過程を踏んだことで、子どもたちは文章の構成を考えて書くことができるようになった。春から使ってきた作文ノートは、2冊目になった。1冊を書き上げたことは、児童にとって大きな自信となっている。
- 野菜の世話をしたり、それを使って学習したり、味わったりすることで、野菜嫌いがなくなった。
- カゴメからもらった「夏休みガイドブック」を見ながら保護者も一緒に栽培したり、調理パーティーに参加したりと楽しい思い出ができ、保護者、子ども、教師の人間関係がより密になった。

■ モグモからのメッセージ:



作文を読んでみると、どれも2年生とは思えない文章力！接続詞や「キラキラ」「ざらざら」等、“ようすを表す言葉”なども上手に使って表現しているよ。五感を使って、ていねいに観察したことで、「凜々子」の微妙な変化もきちんと発見することができたんだね。観察を通して感じたみんなの驚きや喜びがとってもよく伝わってきたよ！

栽培活動でも、最初に目標をみんなで話し合っただけで、意欲的に栽培に取り組めたね。夏休みに鉢を持ち帰って、家族と一緒に栽培を続けたことが、その後のスパゲティパーティーの大成功にもつながっているよ。